

平成 30 年度

事業計画

平成 30 年

公益財団法人 五島美術館

◆事業計画書

I. 五島美術館(公益目的事業①)

1. 展示事業

1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵] 春の優品展—詩歌と物語のかたち—

平成 30 年 3 月 31 日[土]—5 月 6 日[日]

館蔵品の中から、詩歌や物語を題材とした書画の名品約 50 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。『古今和歌集』をはじめとする名歌を書した平安時代の古筆、歌人の代表歌と姿を描いた歌仙絵のほか、物語絵、琳派作品など、絵画と書そして言葉がもつイメージが響きあう美の世界を展観する。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4 月 28 日[土]—5 月 6 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(4 月 30 日は開館)、5 月 1 日[火]

記念講演会＝4 月 29 日[日] 林温氏(慶應義塾大学教授)

演題＝「日本美術と和歌の「かたち」」

(2) [館蔵] 近代の日本画展

平成 30 年 5 月 12 日[土]—6 月 17 日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「風景表現」を中心に、橋本雅邦、小川芋銭、横山大観、川合玉堂、富田溪仙、小林古径、橋本関雪、安田靉彦、川端龍子など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 40 点を選び展観。特集展示として館蔵の漆芸作品約 20 点も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵] 文房具の至宝展—机上の小宇宙—

平成 30 年 6 月 23 日[土]—7 月 29 日[日]

現代書の巨匠・宇野雪村氏(1912～95)旧蔵のコレクションより、筆や墨、硯、紙、石印材など日本・中国の文房具約 100 点を展観(会期中一部展示替あり)。いにしえの文人達が机上で愛でた、小さいながらも存在感と雅趣溢れる世界を紹介する。特集展示として館蔵の宇野雪村の書作品約 10 点も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7 月 16 日は開館)、7 月 17 日[火]

館内整備のため休館＝2018 年 7 月 30 日[月]—8 月 24 日[金]

(4) [館蔵] 秋の優品展—禅宗の美術と学芸—

平成 30 年 8 月 25 日[土]—10 月 14 日[日]

禅宗寺院を中心に発達した書画や高僧の墨跡、五山版の出版などは中世の文化に大きな影響を与え、日本人の美意識をも深化させた。館蔵品の中から鎌倉・室町時代の禅宗美術の諸相を紹介する(会期中一部展示替あり)。特集展示として館蔵の日本陶磁約 15 点も同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 6 日[土]—10 月 14 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9 月 17 日・9 月 24 日・10 月 8 日は開館)、9 月 18 日[火]、9 月 25 日[火]、10 月 9 日[火]

(5) [特別展] 東西数寄者の審美眼—阪急・小林一三と東急・五島慶太のコレクション—

平成 30 年 10 月 20 日[土]—12 月 9 日[日]

阪急グループの創始者小林一三(雅号「逸翁」／1873～1957)は、鉄道・百貨店・宝塚歌劇と現在に続く事業を、関西圏を中心に拓いてきた。そして、逸翁の勧めで鉄道経営に携わり、首都圏で東急グループの基礎を築いた五島慶太(雅号「古経楼」／1882～1959)。逸翁美術館(大阪府池田市)と五島美術館の収蔵品から、絵画・書跡・茶道具など自らが選び蒐集し二人の心の安らぎとなった美術品の数々約 100 点を紹介する(会期中一部展示替あり)。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

レセプション＝平成 30 年 10 月 19 日[金]

記念講演会＝10 月 28 日[日] 齋藤康彦氏(山梨大学名誉教授)

11 月 11 日[日] 仙海義之氏(逸翁美術館学芸課長)

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

平成 30 年 12 月 15 日[土]—平成 31 年 2 月 17 日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懷石道具・炭道具のほか、『大正名器鑑』所載の名物茶道具を中心に道具の取合せを展観する。特集展示として朝鮮半島の陶芸・高麗茶碗約 15 点も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(12 月 24 日・1 月 14 日・2 月 11 日は開館)、12 月 25 日[火]—1 月 4 日[金]、1 月 15 日[火]、2 月 12 日[火]

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

平成 31 年 2 月 23 日[土]—3 月 31 日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として館蔵の日本刀剣約 10 振も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

1-2. 入館者数(目標)

平成30年度の入館者数は7企画合計で6万5千人の獲得を目標としていくこととする。今期は展示内容の充実に加え、美術館巡回バス「せたがや3館めぐる一ふ」の新設などによる集客効果等と合わせて前年を2千人ほど上回ることを目指していく。

(単位:入館者=人、開館日=日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) 館蔵「春の優品展－詩歌と物語のかたち－」＜平成30年3月31日－5月6日＞	8,168	636	8,804	369	9,173	32	287
※ 7,912	616	8,528	358	8,886	31	287(平成30年3月31日を除く)	
(2) 館蔵「近代の日本画展」＜平成30年5月12日－6月17日＞	7,667	504	8,171	242	8,413	32	260
(3) 館蔵「文房具の至宝展－机上の小宇宙－」＜平成30年6月23日－7月29日＞	5,043	727	5,770	149	5,919	32	183
(4) 館蔵「秋の優品展－禅宗の美術と学芸－」＜平成30年8月25日－10月14日＞	6,690	586	7,276	322	7,598	44	171
(5) 特別展「東西数寄者の審美眼－阪急・小林一三と東急・五島慶太のコレクション」 ＜平成30年10月20日－12月9日＞	14,666	1,602	16,268	732	17,000	44	386
(6) 館蔵「茶道具取合せ展」＜平成30年12月15日－平成31年2月17日＞	9,799	691	10,490	129	10,619	47	224
(7) 館蔵「中国の陶芸展」＜平成31年2月23日－3月31日＞	6,385	441	6,826	240	7,066	32	218
【合 計】	58,418	5,187	63,605	2,183	65,788	263	250
※ 58,162	5,167	63,329	2,172	65,501	262	250(平成30年3月31日を除く)	

2. 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は尾形光琳筆「業平東下り図 伊勢物語富士山図」を修復予定。

(4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、一部改修して、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

(5) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・ 各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会、源氏絵データベース研究会)。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(6) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の国際交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(7) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。また、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

(8) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(9) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

3. 普及事業

(1) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(2) 友の会

茶の友会・美の友会・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・茶会・展示解説を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(3) ギャラリートーク(展示解説) 一般入館者対象(年間 34 回開催)

・[館蔵]春の優品展—詩歌と物語のかたち—

————— 平成 30 年 4 月 5 日、13 日、20 日、26 日、28 日、5 月 2 日、6 日の 7 回

・[館蔵]近代の日本画展

—————平成 30 年 5 月 24 日、6 月 1 日、14 日の 3 回

・[館蔵]文房具の至宝展—机上の小宇宙—

—————平成 30 年 6 月 28 日、7 月 6 日、18 日の 3 回

・[館蔵]秋の優品展—禅宗の美術と学芸—

— 平成 30 年 8 月 30 日、31 日、9 月 5 日、13 日、27 日、10 月 4 日、11 日、14 日の 8 回

・[特別展]東西数寄者の審美眼—阪急・小林一三と東急・五島慶太のコレクション—

————— 平成 30 年 10 月 23 日、31 日、11 月 6 日、22 日、30 日の 5 回

・[館蔵]茶道具取合せ展

———平成 30 年 12 月 21 日、22 日、平成 31 年 1 月 11 日、16 日、18 日、2 月 5 日の 6 回

・[館蔵]中国の陶芸展

————— 平成 31 年 2 月 27 日、3 月 27 日の 2 回

* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(4) 茶会(当館主催)—茶の友会会員対象

・第 1 回＝平成 30 年 11 月 15 日～18 日の 4 日間

・第 2 回＝平成 31 年 3 月 14 日～17 日の 4 日間

* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(5) 陶芸講座(当館主催)—美の友会会員対象

・第 1 回＝平成 30 年 5 月 26 日・27 日 予定 定員(各日 35 名)

・第 2 回＝平成 30 年 9 月 22 日・23 日 予定 定員(各日 35 名)

・第 3 回＝平成 31 年 1 月 26 日・27 日 予定 定員(各日 35 名)

(6) 美の友会月例美術講座(当館主催)ー美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月 1～3 回)として(年間 29 回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇染織鑑賞シリーズⅪ「茶会記と染織」

桃山・江戸時代の茶人たちは初めて拝見する掛物や茶入を拝見するとき、その表具や仕覆の織物までも書き留めていた。昨年度に引き続き『松屋会記』『天王寺屋会記』『今井宗久書拔』『槐記』などを取り上げ、服飾や茶道具を飾った染織品を手掛かりに、当時の鑑賞のあり方やもてなしの料理まで、茶会記を楽しみながら読む講座である。鑑賞の基礎知識も含め関連資料をスライドを交えて解説する(8・10・11 月は休講。第 1～9 回は平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月実施)。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

第 10 回	平成 30 年	4 月 21 日[土]	「松屋会記④」
第 11 回		5 月 19 日[土]	「松屋会記⑤」
第 12 回		6 月 16 日[土]	「天王寺屋会記④」
第 13 回		7 月 21 日[土]	「天王寺屋会記⑤」
第 14 回		9 月 15 日[土]	「今井宗久書拔①」
第 15 回		12 月 15 日[土]	「今井宗久書拔②」
第 16 回	平成 31 年	1 月 19 日[土]	「槐記①」
第 17 回		2 月 16 日[土]	「槐記②」
第 18 回		3 月 23 日[土]	「逾好日記」

◇分野別名品鑑賞シリーズⅡ「文房具の世界」

いにしへの文人は、美しい文房具で書斎を彩り、それらを愛でつつ詩文書画の創作に勤しんだ。希少な材料を贅沢に用いて、また様々に意匠を凝らしており、極めようとするれば「玩物喪志」(物に心を奪われ、志を失う)となるほどの奥深く魅力的な世界を有している。本講座では館蔵の宇野雪村コレクションを中心に、材質・造形、使用の実際を紹介しつつ、それらの鑑賞を試みる(8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 尾川明穂〉

第 1 回	平成 30 年	4 月 7 日[土]	「墨の造形と色彩」
第 2 回		5 月 5 日[土]	「硯の材質と鑑賞法」
第 3 回		6 月 2 日[土]	「印の石材と刻法」
第 4 回		7 月 7 日[土]	「紙の製法と装飾」
第 5 回		9 月 1 日[土]	「筆管装飾と筆毫」

◇工芸鑑賞シリーズⅢ「工芸史拾い歩き一茶の湯編 其の二」

用途に応じた機能と使い勝手を持ち、多種多様な技法と卓抜な発想のもとで、あらゆる優れた工芸品は生み出されてきた。本講座は、人々の生活をあまねく満たす美的な空想と工芸の限らない魅力のうち、おいしいところを摘み食いする連続講座である。今期は平成 27 年に行った「茶の湯編」で扱いきれなかった問題も含め、茶の湯の文化について工芸史の視点からひもとく(8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 福島 修〉

第 1 回 平成 30 年 4 月 14 日[土] 「茶道史をふりかえる」

第 2 回 5 月 12 日[土] 「茶壺の価値」

第 3 回 6 月 9 日[土] 「胡銅の色」

第 4 回 7 月 14 日[土] 「菓子造の造形」

第 5 回 9 月 8 日[土] 「茶室と銘木」

◇書跡鑑賞シリーズⅧ「近代書家の書」

わが国の書の歴史は、漢字が中国から伝わって始まるが、漢字から仮名をつくりあげるなど、わが国独自の美意識も詰まっている。ただ、時々中国の影響を受けながら、変遷を経ており、明治以降も清の影響を受け、その影響を受けた漢字の作品と、わが国で発達した仮名の作品とに分かれた。戦後まもなくから、仮名と漢字を合わせた書も模索され、文字の造形美や、墨そのものに美を見出す新しい書の作品も生まれてきた。当館は、こうした新しい書の動きに関わった書家の作品も所蔵している。今回はそうしたわが国の近代書をつくりあげた書家を取り上げ、書の新しい魅力を紹介したい(11 月は休講)。

〈担当＝五島美術館副館長 名兎耶 明〉

第 1 回 平成 30 年 10 月 6 日[土] 「上田桑鳩の書」

第 2 回 12 月 1 日[土] 「大澤竹胎の書」

第 3 回 平成 31 年 1 月 5 日[土] 「宇野雪村の書」

第 4 回 2 月 2 日[土] 「森田竹華の書」

第 5 回 3 月 2 日[土] 「近代書家いろいろ」

◇陶磁鑑賞シリーズⅦ「唐物茶入」

唐物茶入は、茶の湯道具として日本で高い評価を受け、大切にされてきた。それは、戦国時代から安土・桃山時代にかけて、恩賞として一国の領地に代わる価値があったと伝えられている。この講座では、中国産の唐物茶入を形状ごとにとりあげ、画像で紹介し、産地・制作年代・技法について現在わかる限りの情報や、その茶入にまつわるエピソードや鑑賞のポイントを解説する(11 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

第 1 回 平成 30 年 10 月 13 日[土] 「播磨・大海・丸壺」

第 2 回 12 月 8 日[土] 「茄子・尻膨・文琳」

第 3 回 平成 31 年 1 月 12 日[土] 「肩衝・小肩衝」

第 4 回 2 月 9 日[土] 「鶴首・瓢箪・驢蹄」

第 5 回 3 月 9 日[土] 「弦付・水滴・手瓶・耳付・瓶子・その他」

(7) 青少年向け普及講座

・小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ①「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 | 平成 30 年 5 月 4 日 [金・祝] |
| ②「こども美術講座 日本画を知ろう」 | 6 月 3 日 [日] |
| ③「こども美術講座 墨とすずりの小宇宙」 | 7 月 22 日 [日] |
| ④「こども美術講座 色んな筆、楽しい筆」 | 7 月 29 日 [日] |
| ⑤「こども美術講座 お坊さんと書」 | 8 月 26 日 [日] |
| ⑥「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 | 10 月 8 日 [月・祝] |
| ⑦ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定) | |

(8) ミュージアム・コンサート

音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

平成 30 年 7 月 5 日 [木] クアルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会

平成 30 年 9 月 20 日 [木] 長唄演奏会一和のこころを聴く

(9) 茶室公開

公開日＝「館蔵 近代の日本画展」期間中(平成 30 年 5 月 16 日 [水])

「館蔵 茶道具取合せ展」期間中(平成 31 年 1 月 30 日 [水])

入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説及び呈茶を学芸部が行う。

(10) 外部との連携事業

東急グループの社会貢献活動への協力の一環として、「とうきゅうキッズプログラム」、「キラリブラスカレッジ」などに参加する。MY Bunkamura とのタイアップをはじめ他の美術館、博物館等、文化施設との連携事業を積極的に推進する。

(11) 展示案内、ホームページ等の国際化

外国人観光客の増加に伴い、館内の設備や展示案内、ホームページ等について表記の国際化を推進していく。

Ⅱ．大東急記念文庫(公益目的事業②)

1. 文庫事業

(1) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として IPM を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの複本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多經』(鎌倉中期写本)等を撮影する。
- ・収蔵庫内書架の扉や棚板の修理、補強を行なう。

(2) 図書修理

本年度は前年度に続き、『大毗盧遮那經疏』卷第十六・十七(寛治二年写・築島裕氏寄贈)の二帖を修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)を購入する。

(4) 図書調査

元政庵瑞光寺(京都市伏見区)、最明寺(足柄上郡大井町)等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(5) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(6) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(7) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第29回配本第15巻「国史・古記録・寺誌」の刊行準備をする。
- ・機関誌「かがみ」第49号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

(8) 普及

・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。

- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(9) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(10) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

(11) その他

平成 31 年の文庫創立 70 周年に向け、他の特殊文庫や研究機関と連携を図りつつ、第二展示室を使った特別展示、イベント、出版物等、記念行事の準備を行う。

以 上

収支予算書

2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	[11,530,000]	[11,530,000]	[0]
特 定 資 産 運 用 益	[10,000]	[10,000]	[0]
公 益 事 業 収 益	[136,074,000]	[134,131,000]	[1,943,000]
受 取 寄 付 金	[198,970,000]	[200,719,000]	[△ 1,749,000]
雑 収 益	[70,000]	[70,000]	[0]
経常収益計	346,654,000	346,460,000	194,000
(2) 経常費用			
事 業 費	[325,394,000]	[322,327,000]	[3,067,000]
管 理 費	[20,427,000]	[24,850,000]	[△ 4,423,000]
経常費用計	345,821,000	347,177,000	△ 1,356,000
評価損益等調整前当期経常増減額	833,000	△ 717,000	1,550,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	833,000	△ 717,000	1,550,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
指 定 正 味 財 産 へ 振 替	[3,000,000]	[15,000,000]	[△ 12,000,000]
経常外費用計	3,000,000	15,000,000	△ 12,000,000
当期経常外増減額	△ 3,000,000	△ 15,000,000	12,000,000
当期一般正味財産増減額	△ 2,167,000	△ 15,717,000	13,550,000
一般正味財産期首残高	1,012,147,942	1,027,864,942	△ 15,717,000
一般正味財産期末残高	1,009,980,942	1,012,147,942	△ 2,167,000
II 指定正味財産増減の部			
一 般 正 味 財 産 か ら の 振 替 額	[3,000,000]	[15,000,000]	[△ 12,000,000]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 68,970,000]	[△ 68,719,000]	[△ 251,000]
当期指定正味財産増減額	△ 65,970,000	△ 53,719,000	△ 12,251,000
指定正味財産期首残高	3,870,342,694	3,924,061,694	△ 53,719,000
指定正味財産期末残高	3,804,372,694	3,870,342,694	△ 65,970,000
III 正味財産期末残高	4,814,353,636	4,882,490,636	△ 68,137,000

収支予算書

2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[11,530,000]	[11,530,000]	[0]
基本財産受取利息	9,426,000	9,426,000	0
基本財産受取配当	2,104,000	2,104,000	0
特定資産運用益	[10,000]	[10,000]	[0]
特定資産受取利息	10,000	10,000	0
公益事業収益	[136,074,000]	[134,131,000]	[1,943,000]
展示事業収益	55,353,000	54,250,000	1,103,000
調査研究事業収益	8,750,000	7,910,000	840,000
普及事業収益	20,500,000	20,500,000	0
文庫事業収益	1,700,000	1,700,000	0
力レシダ一収益	39,671,000	39,671,000	0
売店収益	10,100,000	10,100,000	0
受取寄付金	[198,970,000]	[200,719,000]	[△ 1,749,000]
受取寄付金額	130,000,000	132,000,000	△ 2,000,000
受取寄付金振替額	68,970,000	68,719,000	251,000
雑収益	[70,000]	[70,000]	[0]
受取利息	50,000	50,000	0
有価証券運用益	10,000	10,000	0
雑収益	10,000	10,000	0
経常収益計	346,654,000	346,460,000	194,000
(2) 経常費用			
事業費	[325,394,000]	[322,327,000]	[3,067,000]
役員報酬	7,179,000	22,275,000	△ 15,096,000
給料手当	93,474,000	80,448,000	13,026,000
臨時雇賃金	11,541,000	9,300,000	2,241,000
退職給付費	3,224,000	1,202,000	2,022,000
福利厚生費	15,740,000	15,505,000	235,000
会議費	340,000	340,000	0
旅交費	200,000	200,000	0
交通費	100,000	100,000	0
通信費	5,060,000	5,060,000	0
減価償却費	69,348,000	67,459,000	1,889,000
消耗什器備品費	997,000	997,000	0
消耗品費	925,000	925,000	0
修繕費	5,000,000	5,000,000	0
印刷費	4,800,000	5,150,000	△ 350,000
宣伝費	13,439,000	13,439,000	0
光熱費	6,100,000	6,100,000	0
保険料	7,225,000	7,225,000	0
諸謝金	864,000	864,000	0
租税公課	150,000	150,000	0
家庭管理費	4,620,000	4,520,000	100,000
委託費	5,000,000	5,000,000	0
展覧会費	13,352,000	13,352,000	0
催物費	10,230,000	11,230,000	△ 1,000,000
調査研究費	14,850,000	14,850,000	0
雑費	5,800,000	5,800,000	0
力レシダ一制作費	1,110,000	1,110,000	0
	17,800,000	17,800,000	0

科 目					予算額	前年度予算額	増 減
シ	ヨ	ツ	ブ	原 価	6,926,000	6,926,000	0
管		理		費	[20,427,000]	[24,850,000]	[△ 4,423,000]
役		員	報	酬	3,700,000	11,482,000	△ 7,782,000
給		料	手	当	8,685,000	5,490,000	3,195,000
退	職	給	付	費	76,000	28,000	48,000
福	利	厚	生	費	1,010,000	995,000	15,000
会		議		費	310,000	310,000	0
旅	費	交	通	費	110,000	110,000	0
交		際		費	210,000	210,000	0
通	信	運	搬	費	408,000	408,000	0
減	価	償	却	費	3,661,000	3,560,000	101,000
消	耗	什	器	備 品	53,000	53,000	0
消		耗	品	費	105,000	105,000	0
印	刷	製	本	費	64,000	64,000	0
光	熱	水	料	費	375,000	375,000	0
諸		謝		金	1,450,000	1,450,000	0
雑				費	210,000	210,000	0
経常費用計					345,821,000	347,177,000	△ 1,356,000
評価損益等調整前当期経常増減額					833,000	△ 717,000	1,550,000
損益評価等計					0	0	0
当期経常増減額					833,000	△ 717,000	1,550,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計					0	0	0
(2) 経常外費用							
指 定 正 味 財 産 へ 振 替					[3,000,000]	[15,000,000]	[△ 12,000,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額					3,000,000	15,000,000	△ 12,000,000
経常外費用計					3,000,000	15,000,000	△ 12,000,000
当期経常外増減額					△ 3,000,000	△ 15,000,000	12,000,000
当期一般正味財産増減額					△ 2,167,000	△ 15,717,000	13,550,000
一般正味財産期首残高					1,012,147,942	1,027,864,942	△ 15,717,000
一般正味財産期末残高					1,009,980,942	1,012,147,942	△ 2,167,000
II 指定正味財産増減の部							
一 般 正 味 財 産 か ら の 振 替 額					[3,000,000]	[15,000,000]	[△ 12,000,000]
受 取 寄 付 金 振 替 額					3,000,000	15,000,000	△ 12,000,000
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額					[△ 68,970,000]	[△ 68,719,000]	[△ 251,000]
受 取 寄 付 金					△ 68,970,000	△ 68,719,000	△ 251,000
当期指定正味財産増減額					△ 65,970,000	△ 53,719,000	△ 12,251,000
指定正味財産期首残高					3,870,342,694	3,924,061,694	△ 53,719,000
指定正味財産期末残高					3,804,372,694	3,870,342,694	△ 65,970,000
III 正味財産期末残高					4,814,353,636	4,882,490,636	△ 68,137,000